

七色合點豆

全三冊

13
2946
210



待
へ13
2946
210

口豆くちまめおりのんども此こゝ青豆あおまめと知られず豆まめもそのおりのん
豆まめの拙こぼき依よ曉あやき守まも。豆まめ人形にんがたの虚名うそなと會ありてお手て小豆こまめが丸まるつ
豆まめ板いたれ小利せうりか走はりて足あし豆まめと踏ふみとてかたて浮世うきよの豆まめ右衛門えもんめく
豆まめ蟹かに甲か小似せうにせく穴あな掘ほきとて思おもひとてぬが種たねの味あじ噌そう豆まめと煮にに
豆まめ殻かを焼やかぐとたてのゆ。玉たまの黒豆くろまめかまると真暗まゝんかしてををとては空そら
豆まめ鉄炮てつぱうとはおととて浮うき雲うみの福豆ふくまめ豈いかで福茶ふくぢやを柄えい杓しやくの
らんや隱いん元豆げんまめの禪味ぜんみとあまんとて座ざ禪豆ぜんまめの悟ごをを作つくる。鬼おに打うち
豆まめ心の邪鬼じやくきと掃はひて一生いっしやうは死車しじや豆まめと掃はひて自世じよ乃のち流行りやう行ぎやう
豆まめ蔵くらの品しん玉たまより早く豆まめを陶鑪たうろで斬きるるも速すみき。塗ぬ筆ひつ若わく
豆まめかまむとて是こゝむれとてあまんとて流行りやう行ぎやうおきまて此草こゝ命いのちも若わく
用もちいらるゝとてあまんとて煎豆せんまめも花はなをかまへ。



享和四歳次
甲子春發兌

醒世老人
山東京傳述



さあさあけはめはまうらうてふらうていしま
 たぬいふらふそとなまふらぬいふらふ
 こころのふらふらふらふらふらふらふらふ
 むをさこのあやひふらふらふらふらふらふ
 ふらふらふらふらふらふらふらふらふらふ
 けらふらふらふらふらふらふらふらふらふ
 むをさうらふらふらふらふらふらふらふ
 けらふらふらふらふらふらふらふらふらふ
 けらふらふらふらふらふらふらふらふらふ
 のなまふらふらふらふらふらふらふらふ

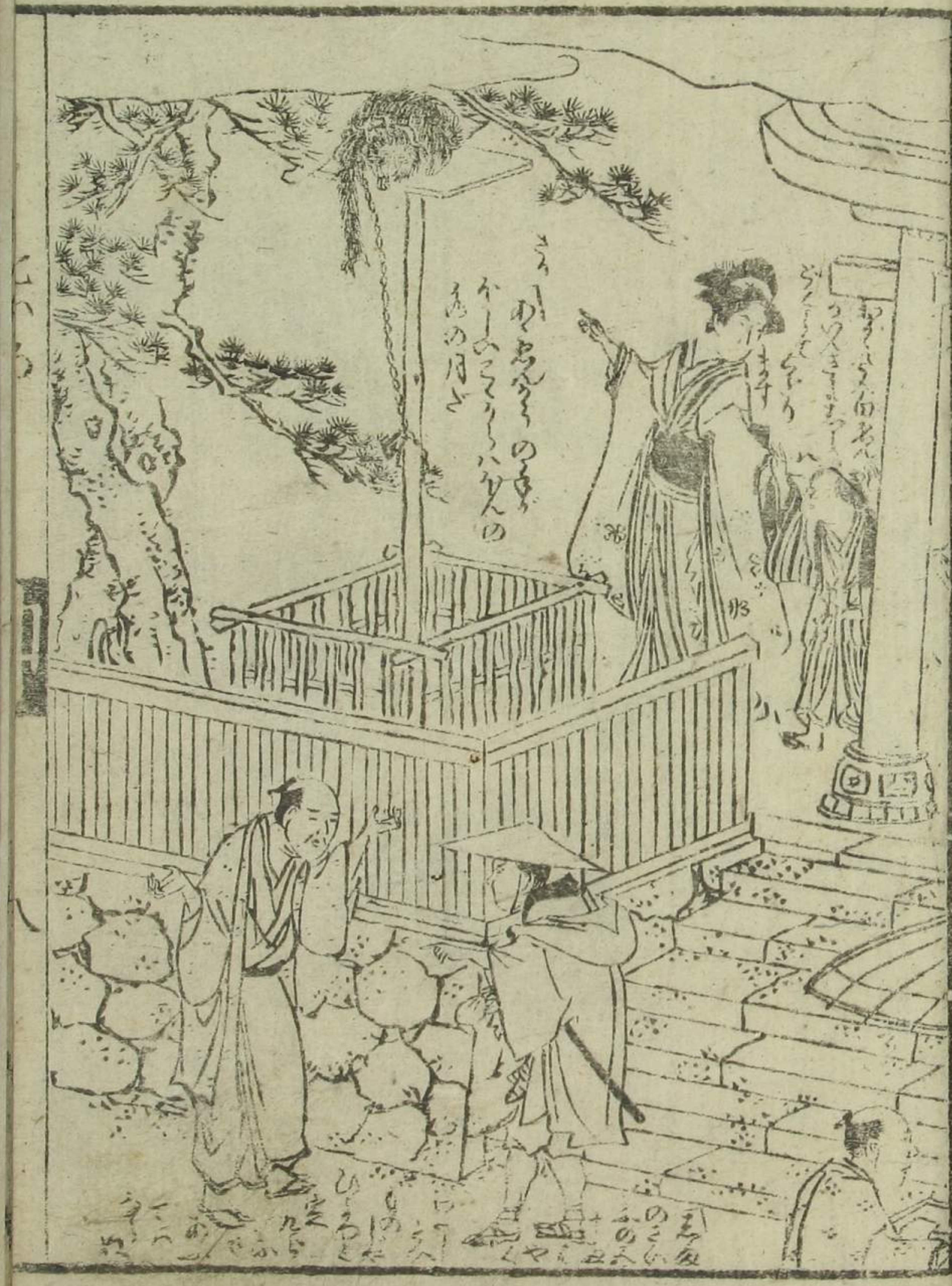
世よりまてすのよてまて
 うらふらふらふらふらふらふらふらふ
 むをさこのあやひふらふらふらふらふ
 ふらふらふらふらふらふらふらふらふ
 けらふらふらふらふらふらふらふらふ
 むをさうらふらふらふらふらふらふらふ
 けらふらふらふらふらふらふらふらふらふ
 けらふらふらふらふらふらふらふらふらふ
 のなまふらふらふらふらふらふらふらふ



小けをてしつて人の
 ののうらふらふらふらふらふらふらふ
 むをさこのあやひふらふらふらふらふ
 ふらふらふらふらふらふらふらふらふ
 けらふらふらふらふらふらふらふらふ
 むをさうらふらふらふらふらふらふらふ
 けらふらふらふらふらふらふらふらふらふ
 けらふらふらふらふらふらふらふらふらふ
 のなまふらふらふらふらふらふらふらふ



江戸前
 大蒲



市休所
 花見茶屋
 木の葉は春の知らせ
 春の風は木の葉を
 吹飛ばすやうに
 春の空は雲を
 吹飛ばすやうに
 春の日は花を
 照らすやうに
 春の雨は花を
 潤すやうに
 春の鳥は花を
 囀るやうに
 春の虫は花を
 食むやうに
 春の人は花を
 見よやうに



春の風は木の葉を
 吹飛ばすやうに
 春の空は雲を
 吹飛ばすやうに
 春の日は花を
 照らすやうに
 春の雨は花を
 潤すやうに
 春の鳥は花を
 囀るやうに
 春の虫は花を
 食むやうに
 春の人は花を
 見よやうに



ままかきまわしは、
 の名を、
 なるけら、
 たま、あま、か

ままかきまわしは、
 の名を、
 なるけら、
 たま、あま、か



▲此雨してすい
 ちりし

ちりし
 ままかきまわし

京傳店に、
 なるけら、
 たま、あま、か



なるけら、
 たま、あま、か

なるけら、
 たま、あま、か

中らぬ二の舟うら
 とふふとらんら
 中しとちとたつ
 らとたつが太位の
 中とてりい金きき
 くららのまふ乃と
 乃てくえふたれ
 とてりりえん人
 のつげまてなすい
 ととらうとれい
 めのまふとら
 いのらとらり
 たま
 たま
 中らぬ二の舟うら
 とふふとらんら
 中しとちとたつ
 らとたつが太位の
 中とてりい金きき
 くららのまふ乃と
 乃てくえふたれ
 とてりりえん人
 のつげまてなすい
 ととらうとれい
 めのまふとら
 いのらとらり
 たま
 たま



中らぬ二の舟うら
 とふふとらんら
 中しとちとたつ
 らとたつが太位の
 中とてりい金きき
 くららのまふ乃と
 乃てくえふたれ
 とてりりえん人
 のつげまてなすい
 ととらうとれい
 めのまふとら
 いのらとらり
 たま
 たま





山東京傳戲作

萬重抄

あぢきけよふあを後乃今ふり小方ん
 きんぢうちうさよいせうすてあふの
 小方一かたのあふ今身のをさる
 びぢうちうちのあふやまのふて
 さうとらけうあふてあふてあふて
 せうんかふのあふてあふてあふて
 七やちうてんてあふてあふて



あまのけ
 けあつげ
 こらけ
 せうま
 けでう
 こらけ

あまのけりてあふてあふてあふて
 こらけりてあふてあふてあふて
 あまのけりてあふてあふてあふて
 こらけりてあふてあふてあふて
 あまのけりてあふてあふてあふて
 こらけりてあふてあふてあふて

讀 一色 〇きんてあふてあふてあふて
 〇きんてあふてあふてあふて
 〇きんてあふてあふてあふて
 〇きんてあふてあふてあふて
 〇きんてあふてあふてあふて
 〇きんてあふてあふてあふて

小兒無病丸 壹包 百十二文
 半包 六十六文
 女入りの数小兒 賣弘所
 万びやうれ大妙茶 京傳店

